

令和2年度 第1回 大阪府立狭山池博物館運営審議会

令和2年10月15日

大阪府立狭山池博物館運営審議会 審議経過

諮問：大阪府立狭山池博物館の効果的、効率的な運営について

第1回（H29-1） H29.11.15

- 博物館の現状把握

第2回（H29-2） H30.3.8

- 検討（運営体制、情報発信、運営コストなど）課題の抽出

（委員意見）

- ・ **博物館が目指す目標設定**の明確化が必要
- ・ **運営改善の方向性**の検討が必要

第3回（H30-1） H30.6.27

- 効果的・効率的な運営に向けた方向性について
- ・ 博物館の意義と目指すべき方向性
- ・ 収支改善方策検討の方向性

（委員意見）

- ・ **目標設定**および**運営改善の方向性**について了解
- ・ **実現可能性の検討**が必要

第4回（H30-2） H30.9.26

- 効果的・効率的な運営方針（素案）について

（委員意見）

- ・ **委員意見を反映して素案を修正し、中間答申を取りまとめ、案を示すこと**

第5回（H30-3） H31.1.21

- 中間答申（案）について

中間答申

（委員意見）

- ・ **とりまとめられた中間答申に基づいた運営を実践し、方向性の検証が必要**

第6回（R1） R2.2.3

- 中間答申に基づく取組みの方向性確認
- ・ 取組み目標と成果指標の設定
- ・ 今後の集中取組期間とその後の進め方

（委員意見）

- ・ **取組みの目標の明確化を行うこと**
- ・ **成果指標を最終答申までに検討すること**

第7回（R2） R2.10.15

- 評価指標の設定
- 1. 中間答申の概要
- 2. 目指すべき姿と成果指標について
- 3. 開館20周年イベントの概要
- 4. 今後のスケジュール

大阪府立狭山池博物館の効果的・効率的な運営について

1. 中間答申の概要
2. 目指すべき姿と成果指標について
3. 開館20周年イベントの概要
4. 今後のスケジュール

1. 中間答申の概要

※H31.1 「中間答申」再編集

土木の歴史的価値の継承

- 狭山池の歴史を通じ過去の土木技術を伝える
 - ・ 貴重な歴史遺産と土木技術、土地開発史として歴史と文化の継承の意義を高め、保存技術を駆使し後世に広く伝えるとともに、狭山池研究成果を発信する。
- ⇒ 先人たちが地域の安寧と発展に注いだ熱い思いの伝承
 - <土木技術者へのメッセージ>
 - <狭山池の歴史の伝承>
- ・ 土木事業やかんがい事業の意義の訴求
 - <土木への府民理解の推進>
- ⇒ 歴史的ダム保全事業により
 - 土木主体の博物館を建設
 - 【土木主体の博物館としては日本で唯一】



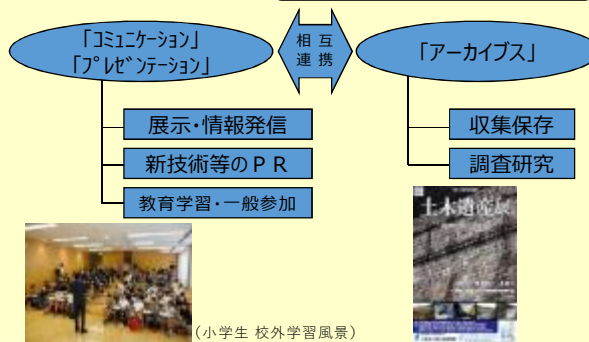
堤体断面展示

- <博物館建設成功の因>
- ・ 狭山池が土木工事の歴史的遺産
 - ・ 産・学・官の連携による建設
 - ・ 地元からの期待と支援（地域の財産）
 - ・ 国の理解と支援（土木事業への期待）
 - ・ トップの歴史・文化的センス（土木博物館）
 - ・ 時代背景（好景気・公共事業費の上昇）

土木事業・土木技術の歴史 「知」の交流・発信拠点

防災教育 拠点

- 狭山池築造で駆使された土木の歴史を踏まえ、土木の価値・機能を発信する
- ・ 土木事業・技術の広報
- ・ 新たな土木技術の発信
- ⇒ <将来を担う技術者の育成>
- ・ 収集保存機能の強化、調査研究の推進
 - <アーカイブス整備>
- ・ 防災インフラの価値発信
- ・ 生涯学習・学校教育支援
 - <防災教育拠点化>



(小学生 校外学習風景)

地域魅力創造

- 国史跡狭山池の持つ多面的価値を活用する
- ・ 「まちのシンボリック資産」価値の創造（ブランディング）（安藤建築、日本最古のダム式ため池）
 - <地域価値の創造>
- ・ 地域協働、郷土学習、狭山池散策、観察など多様な目的を持つ主体が集う場の形成
 - <文化、人の交流拠点創造>

史跡狭山池が地域の財産であるという共通理解の意識醸成



(百舌鳥・古市古墳群)

効果的・効率的な運営に向けた3つの基幹的な取組

狭山池博物館の効果的・効率的な運営の実現のために、以下の3つの取組みを行い、博物館の魅力向上させ、来訪者を増やすことによって、さらに効果的・効率的な運営システムを確立する。

- (1) 他機関と連携した新たな企画による来訪者数の向上（効率的な博物館運営）
- (2) 博物館全体の空間の多様な主体による利活用（施設の効果的活用）
- (3) 中長期の取組み実現に向けた新たな収入（自主財源）確保

1. 中間答申の概要

※H31.1 「中間答申」抜粋

【コンセプト】 いつも、来館者に新しい発見を！ ～狭山池の昔・今・将来～
 < 多様な主体による新たな価値・人の創造発信拠点 >

ポテンシャル

土木の歴史的価値の継承

土木事業・土木技術の歴史「知」の交流・発信拠点

地域魅力創造

戦略

価値の理解度を高め、深める

土木の交流の場を作る

まちのシンボリック資産として活用する。

ターゲット

土木・歴史に興味のある人

郷土史に興味のある人

大阪狭山市民

流域住民

土木・歴史の価値を学び発信する機関（産官学）

地域資産として狭山池と一体として活用する人・団体

取組みの方向性

短期

2021

他機関連携、博物館全体活用により実現

・ 展示改善・収蔵品活用による魅力向上と発信強化

・ 土木の役割・魅力PR
 ・ 防災教育の拡充

・ 地域魅力発信
 ・ 多様な利活用推進

中期

新たな収入確保により実現

魅力的な展示充実
 (展示と狭山池現物一体化、デジタル技術導入等)

交流拠点機能強化
 (土木技術等アーカイブ整備・教育研修メニュー等充実)

国史跡狭山池との一体的魅力創造
 (狭山池の価値を高める環境整備)

長期

展示リニューアル

日本唯一の土木博物館としてのプレゼンス確立

・ 文化遺産拠点
 ・ みどりの中心核
 ・ 憩い・交流・にぎわい創出拠点

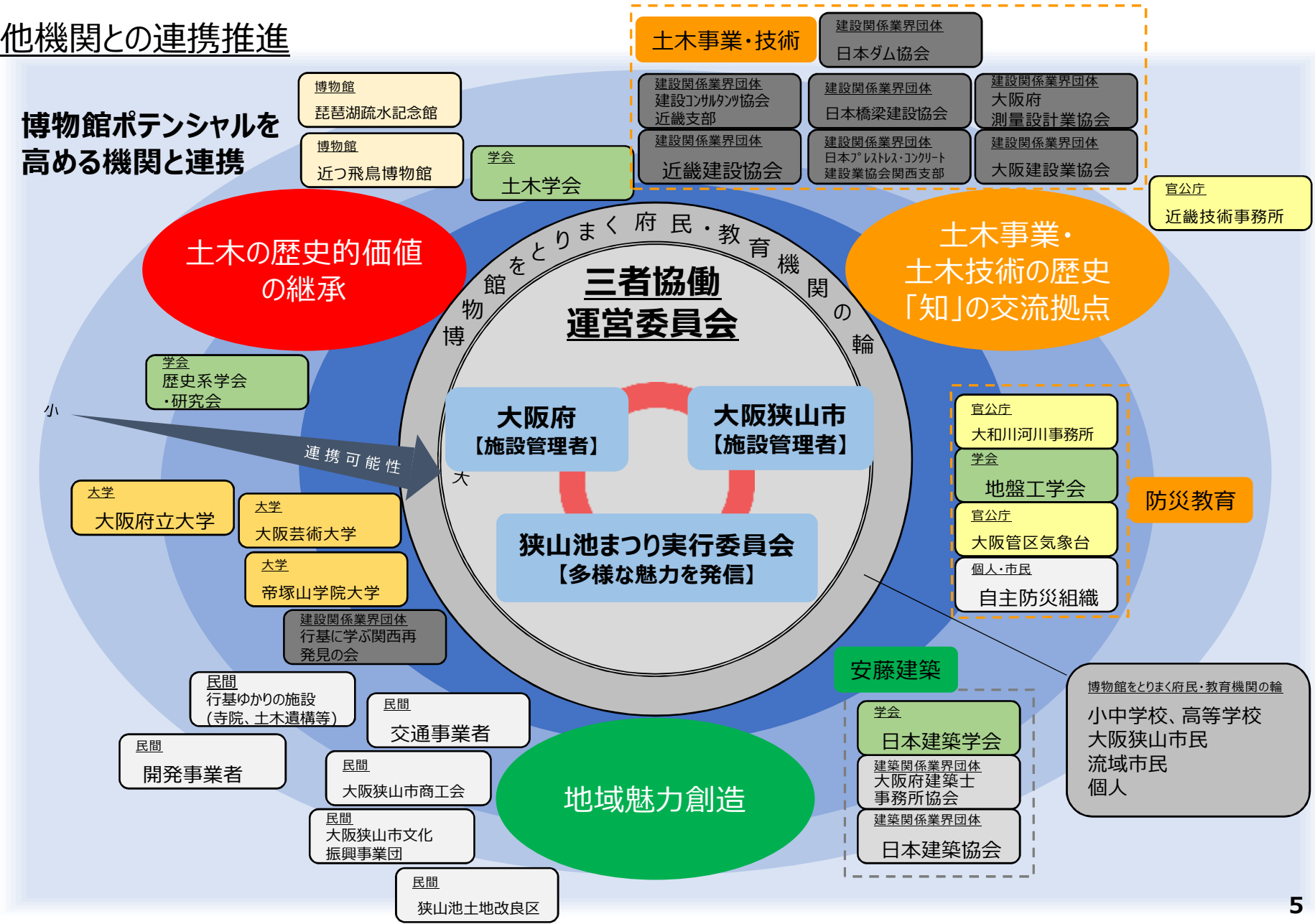
狭山池博物館の目指すべき姿の実現

1. 中間答申の概要

※H31.1 「中間答申」抜粋

他機関との連携推進

博物館ポテンシャルを高める機関と連携

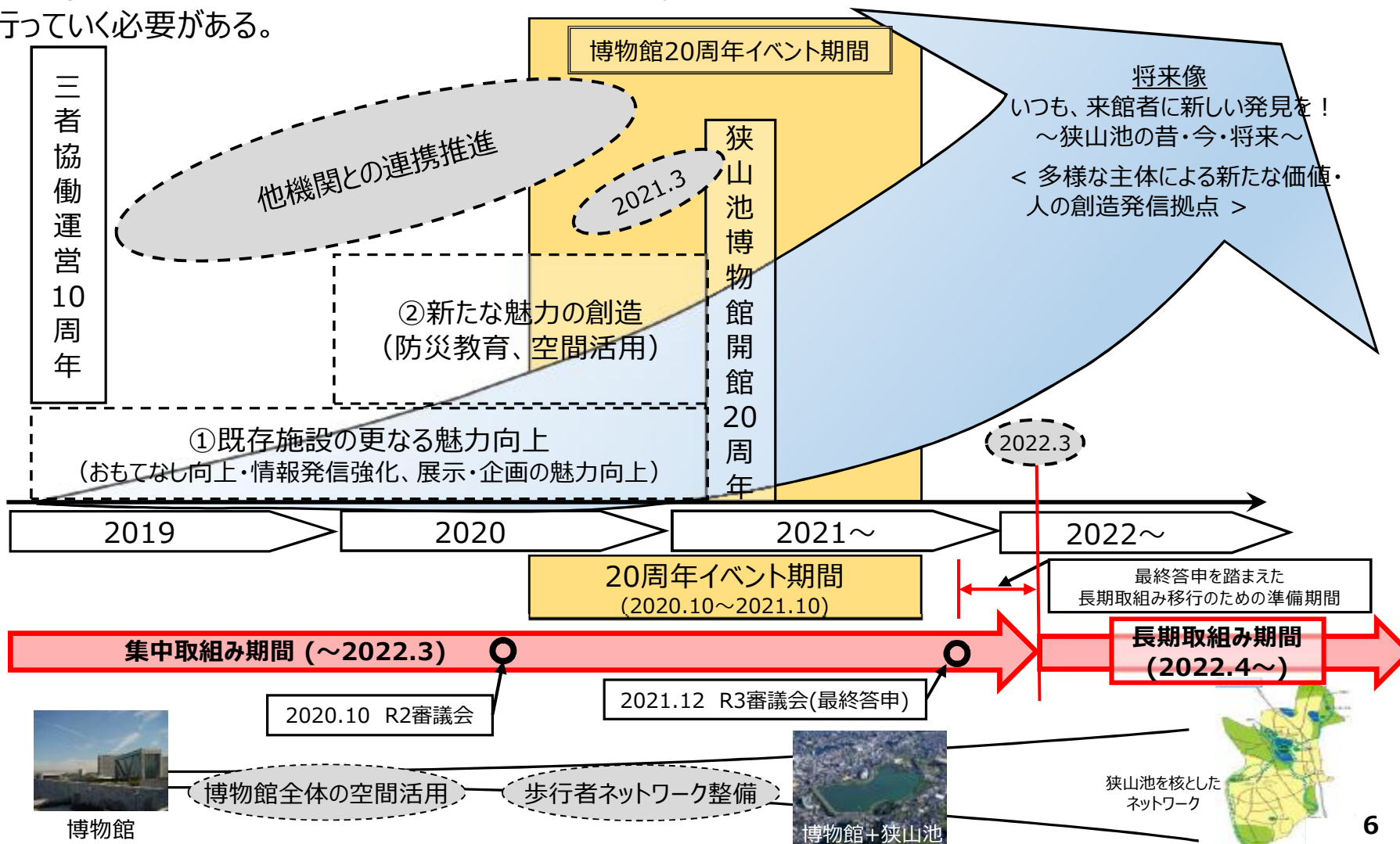


1. 中間答申の概要

※R1.2 審議会資料 再編集

今後の博物館の運営展開

博物館開館20周年に実施するイベント終了後の2022年3月末までの期間を集中期間と位置付け、既存施設の更なる魅力向上（来館者への魅力増進）と新たな魅力の創造（潜在的利用者層の掘り起こし）を行いながら、狭山池博物館が目指すべき姿に確実に近づけるよう、時間軸を意識した展開を行っていく必要がある。



2. 目指すべき姿と成果指標について

【目標の具体化と指標の方向性】（案）

- ・中間答申（将来像）を基に取組みの柱ごとに目指すべき姿を具体化
- ・目指すべき姿を実現するために必要となる取組み方針（案）を設定
- ・取組み方針（案）に基づく様々な取組みを、目指すべき姿、取組みの柱へとつながることを意識して実施
- ・評価指標の設定に向け、指標の方向性（案）を検討

中間答申での将来像	視点	取組みの柱	目指すべき姿	取組み方針（案）	指標の方向性（案）
いつも来館者に新しい発見を与える博物館	既存の 魅力向上	土木の歴史的価値の継承	狭山池の歴史的価値・改修の歴史・「平成の大改修」の内容などの歴史をいろいろな人に広く伝える	<ul style="list-style-type: none"> ・狭山池における研究・調査により得られた知識・情報を取り入れた展示・解説の提供 ・狭山池への興味の有無や年齢階層、国籍などに限らず、誰もが分かる展示・解説の提供 ・狭山池の必要性・重要性をより広く伝えるための情報発信 	既存の 魅力向上 新たな 魅力の創造 ・量的な評価 ・質的な評価
		土木事業・土木技術の歴史・「知」の交流・発信拠点（防災教育拠点）	博物館での調査研究などで得られた土木技術に関する技術や防災情報などの情報を蓄積することにより、それぞれの役割・意義を広く伝える	<ul style="list-style-type: none"> ・土木・建築などの関係団体との連携体制を構築し、情報発信、イベントの実施 ・「日本最古のダム式ため池」「安藤建築」という魅力を活かしたイベントの実施 ・常設・特別展示、防災講座などの情報の蓄積と、適切な公開・発信 	
	地域魅力創造	まちの価値を高める「シンボル」として、また、まちづくりの拠点として多様なイベントに活用	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動を通じた魅力の発信 ・ボランティア主導による地域に根差したイベントの実施 ・市のまちづくり基本構想と一体的な博物館の運営 		

2. 目指すべき姿と成果指標について

【目標の具体化と指標の方向性】（案）

- ・最終答申において取組み方針（案）の達成状況を評価するための指標を設定
- ・指標に基づき取組みを評価するとともに、PDCAサイクルによる継続的なマネジメントを実施

指標項目（案）

来館者数（量的）

- 博物館の来館者数

満足度（質的）

- 博物館全体の満足度
- [イベントごとの満足度（取組み方針（案）の評価）]
- 土木の歴史的価値の継承
- 土木事業・土木技術の歴史・「知」の交流・発信拠点
- 地域魅力創造

これまでの実績や今年度事業・20周年記念事業の状況等を考慮

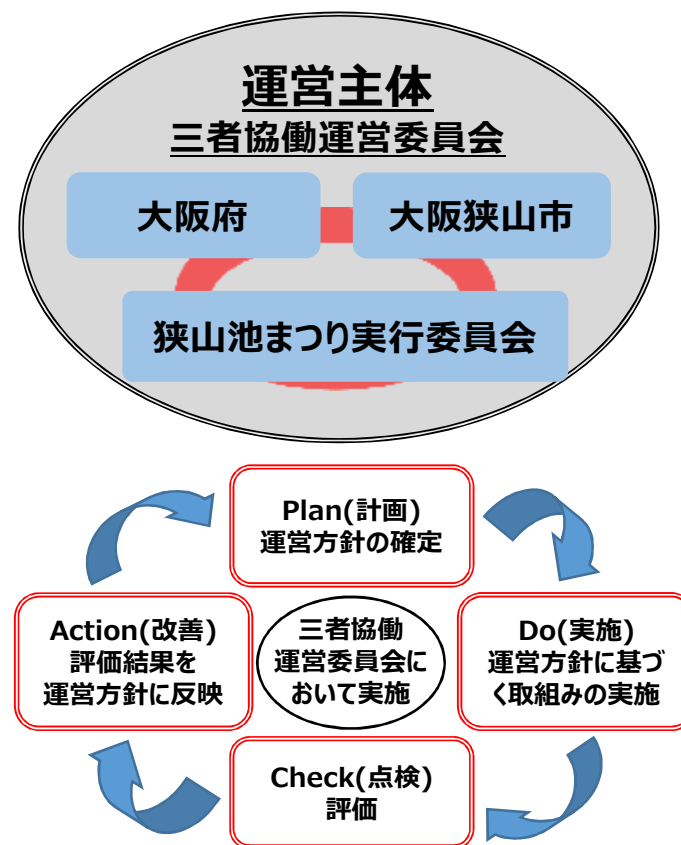
指標の決定（参考）

- 来館者数 ○○万人
- 博物館の満足度 ○○%以上

[取組み方針（案）に基づくイベント]

- 「土木の歴史的価値の継承」のイベント満足度 ○○%以上
- 「土木事業・土木技術の歴史・「知」の交流・発信拠点」のイベント満足度 ○○%以上
- 「地域魅力創造」のイベント満足度 ○○%以上

運営主体による継続的なマネジメントの実施（PDCA）



取組みなどの細部チェックを行うにあたっては以下の点から評価や分析を行いPDCAにつなげる

- ・新規来館者数（リピーター）
- ・「年齢階層」や「どこから来たか」などの属性
- ・SNSやHPのアクセス数
- ・イベント実施延べ日数
- ・イベントの連携団体数
- ・アンケートで得られた生の声

※各年度においてPDCAを実施

2. 目指すべき姿と成果指標について

※太字は集中取り組み期間（2019.4～2022.3）で実施を予定している取り組み

土木の歴史的価値の継承

狭山池における研究・調査により得られた知識・情報を取り入れた展示・解説の提供

- ・遺構、史跡の調査研究成果の充実…①
 - 常設展示
 - 学術調査の実施（特別展）
 - ボランティア企画展
 - 古文書講座
 - 展示解説の更新
- ・展示解説の改良完了
 - わかりやすいリーフレットの作成
 - QRコードの活用
(施設の解説、多言語対応、各種アプリ、アンケート実施 など)
 - 音声ガイドの更新
 - 展示模型の制作
 - VR,ARを活用した展示

狭山池への興味の有無に関係なく、誰もがわかる展示・解説の提供

- ・遺構、史跡の調査研究成果の充実
 - ①と同じ
- ・展示と現地(池)を一体化するサインボードの設置
 - 史跡ネットワーク
 - ダムネットワーク
 - 郷土資料館
- ・展示解説を含む博物館内の多言語化
 - 英語版リーフレットの作成
 - 展示解説の多言語化(英・中・韓)

狭山池の必要性、重要性をより広く伝えるための情報発信

- ・改良後のホームページによる情報発信
 - 館内ストリートビュー掲載
 - 「OsakaFree Wifi」の整備
 - ホームページ改良
- ・SNSを活用した情報発信
 - SNSによる情報発信
 - 来館者によるSNS発信の誘導

土木事業・土木技術の歴史 「知」の交流・発信拠点(防災教育拠点)

土木・建築などの関係団体との連携体制を構築し、情報発信、イベントの実施

- ・土木関係団体との連携体制構築
- ・建築関係団体との連携体制構築
- ・防災関係団体との連携体制構築
 - NPOとの連携(小学生向けイベント)
 - JICAとの連携
 - 民間団体との連携(イケフェス)(安藤建築)
 - 気象台との連携(防災講座)(防災展示)
 - 土木関係団体との連携
 - 建築関係団体との連携(建築見学会)
 - 土木関係団体(ミニ建設技術展)
- ・教育委員会との連携体制構築
 - 大阪狭山市教委との連携(教職員)(小学生)
 - 小学校との連携(土木・防災)
- ・土木技術、防災情報の発信イベントの継続した開催
 - 土木遺産展
 - 狭山池・池底ツアー
 - JICA研修受け入れ
 - イケフェス実施
 - 防災講座(一般)(教職員)
 - 防災パネル展示(大阪府)
 - 土木講座(小中学生)
 - 建築見学会
 - 防災講座(小学生)
 - 防災パネル展示(気象台)
 - ゲーム等を活用した防災教育
- ・防災学習教材の完成
 - 防災教材完成

集積した情報の適切な公開・発信

- ・アーカイブの整備
 - 所蔵資料アーカイブの整理
- ・Webを活用した情報発信
 - 過去の企画展示などの内容をYouTubeやHP等を利用して公開・発信

「日本最古のダム式ため池」「安藤建築」という特性を活かしたイベント実施

- ・博物館での多様なイベントの継続と拡充
 - 狭山池歴史ウォーク、古文書講座などの歴史イベント
 - イケフェスなどの建築系イベント

地域魅力創造

広報活動を通じた魅力の発信

- ・多面的な魅力を活用した様々な媒体での広報の実施
 - 行基イベントの活用
 - 暮らしの道具展
 - クリーンキャンペーン実施
(エフエム大阪)
 - 各種取材対応

ボランティア主導による地域に根差したイベントの実施

- ・博物館での多様なイベントの継続と拡充
 - フレッシュコンサート
 - 書初め展
 - ミズベリング
 - わくわくイベント
 - 写真展
 - 絵画展
 - 狭山池まつり
 - インフラツーリズム
(行基関連)(ツーリスト)
 - マンホールカード配布
 - 20周年記念イベント
 - 地域イベントでの博物館活用

市のまちづくり基本構想との一体的な博物館運営の実施

- ・まちづくり基本構想の検討
 - 「水とみどりのネットワーク構想」の検討
- ・基本構想に基づく狭山池の周辺整備
 - 狭山池南側アンダーパス整備

3. 開館20周年記念イベントの概要

■ 目的

20周年という節目を迎えたのを契機に、効果的・効率的な運営の柱である3つの方針に沿った様々なイベントを集中・連携して実施し、今後の博物館の運営の方向性を広く発信するとともに効率的な運営につなげていく。

土木の歴史的価値の継承

(目指すべき姿)

狭山池の歴史的価値・改修の歴史・「平成の大改修」の内容など土木の歴史をいろいろな人に広く伝えることができる

土木事業・土木技術の歴史・「知」の交流・発信拠点(防災教育拠点)

(目指すべき姿)

博物館での調査研究によって得られた土木技術に関する資料情報等を蓄積することにより、土木技術が持つ役割・意義を広く、深く伝えることができる

地域魅力創造

(目指すべき姿)

まちの価値を高める「シンボル」として、また、まちづくりの拠点として多様なイベントに活用される



【20周年記念ロゴ】

大阪府立狭山池博物館開館20周年にあたる今年、記念ロゴを作成。
今後、実施されるさまざまなイベントや広報などで活用していく予定。



【イベントポスター】

3. 開館20周年記念イベントの概要

◇ 広報・集客について

【ポスターやチラシによるイベントの周知】

○ 近隣自治体及び関連団体への配布（チラシ：35,000枚、ポスター：1,500枚）

（土木事業・技術関連団体・行政（14,000枚、389枚）、高・大学（2,500枚、71枚）、民間事業者（950枚、36枚） など）

○ 南海電鉄駅での広報

⇒ 難波～河内長野間の急行停車駅＋大阪狭山市内の駅でのポスター掲示及びチラシ配架
（難波、新今宮、天下茶屋、堺東、北野田、金剛、河内長野、狭山、大阪狭山市）

○ 広報への掲載

⇒ 広報おおさかさやま 10月号での掲載
⇒ 大阪府広報（もずやんTwitterへの投稿など）

○ HPなどでのイベント周知

⇒ 狭山池博物館のHPにおいて特設ページの開設
（イベントの詳細スケジュール等提供）

○ FMおおさかでの20周年イベント告知

⇒ 10月から告知開始（20周年記念イベント実施期間中は随時告知予定）

○ イベント限定缶バッジの制作、配布

⇒ 期間中に開催されるイベントにおいて、限定缶バッジを配布



【限定缶バッジ（イメージ）】



社会情勢により日程は変更になったり中止になったりする場合がございます。

【HP(20周年特設ページ)】

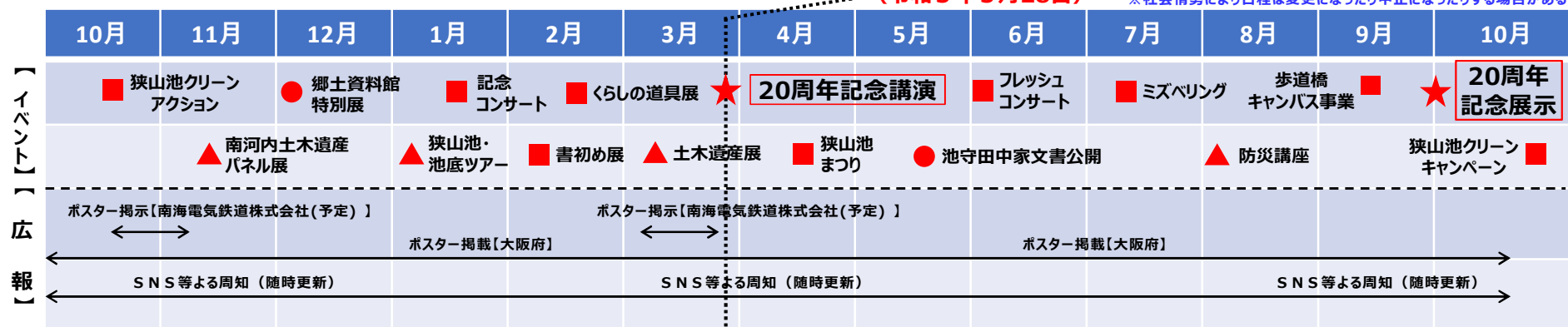
3. 開館20周年記念イベントの概要

◇ 狭山池博物館開館20周年記念イベントとその後の広がり

将来像に向けた 取り組みの柱	20周年事業イベント	20周年事業イベントを 踏まえた将来への方向性
● 土木の歴史的価値の継承	・池守田中家文書公開 ・郷土資料館特別展 など	20年間の研究を振り返り、狭山池の歴史を深く掘り下げ発信していくことで、来館者の興味を喚起し、今後の研究の深まりにつなげていく
▲ 土木事業・土木技術の歴史 ・「知」の交流・発信拠点 (防災教育拠点)	・土木遺産展 ・狭山池・池底ツアー ・防災講座 など	20周年を契機に狭山池の歴史だけでなく土木遺産展などの発信する情報を多様化させることにより、土木技術などの知識の広がり・深まり・蓄積につなげていく
■ 地域魅力創造	・狭山池クリーンキャンペーン ・歩道橋キャンパス ・狭山池まつり など	20周年を契機に多くの関係者と連携し、特別なイベントを開催することでイベントの多様化、集まる人との広がりにつなげていく
★ 上記3つの柱に広く寄与する	・20周年記念講演 ・20周年記念展示 (アジアにおける灌漑と狭山池)	イベントを通して狭山池博物館を強く発信する

◇ スケジュール表 (イベント及び広報スケジュール)

※令和2年9月末時点 **狭山池博物館開館20周年 (令和3年3月28日)** ※社会情勢により日程は変更になったり中止になったりする場合がある

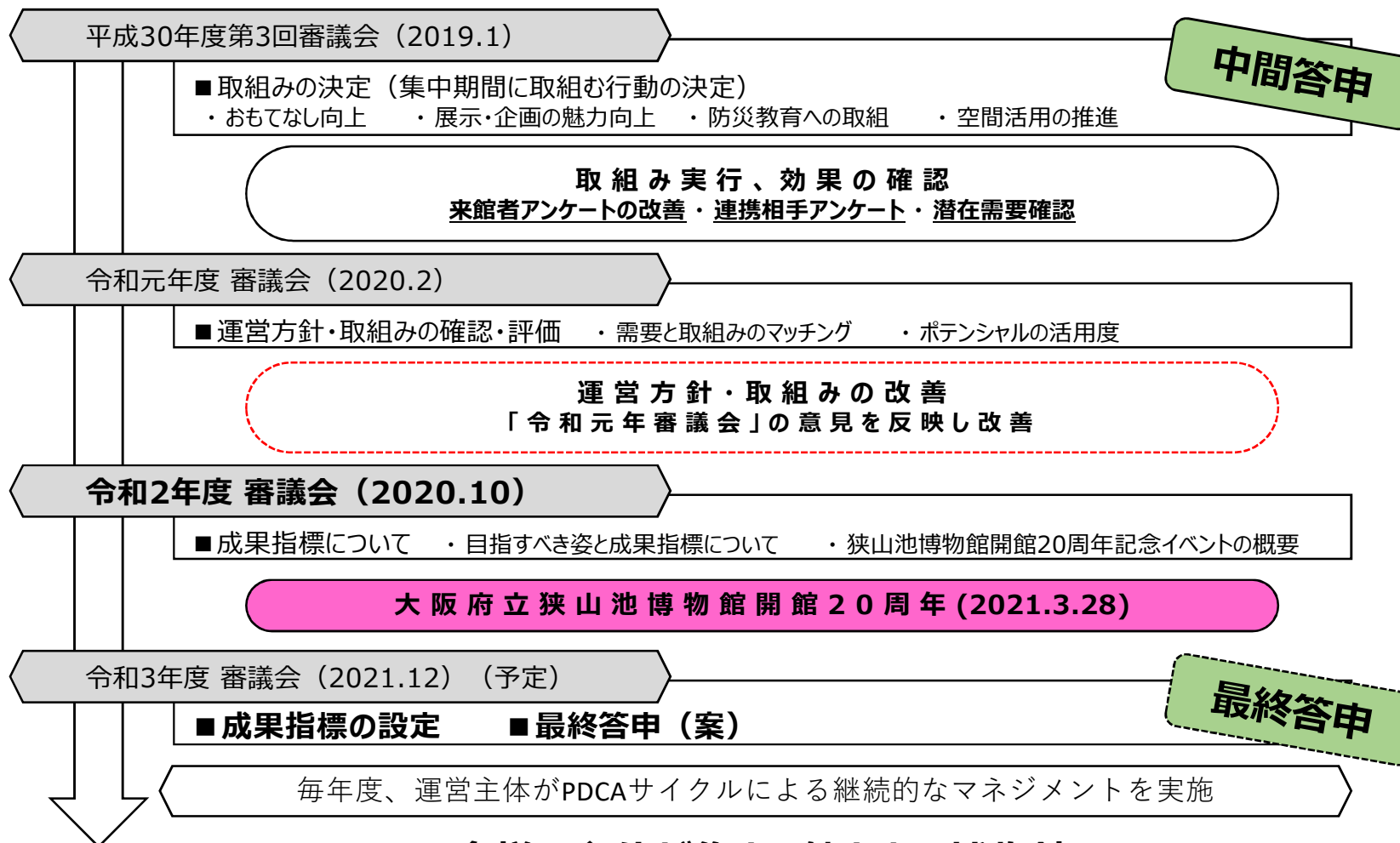


■ イベントの実施方針

- ① 大阪府、大阪狭山市、狭山池まつり実行委員会(三者協働委員会)及びボランティア団体を中心となりイベントを実施する
- ② 毎年定期的に行われている催しに、今回は特別に20周年記念の冠をかさずなど、三者協働委員会の工夫により盛り上げていく
- ③ いわゆる3密を避け、ガイドラインに基づき、コロナ感染症対策を十分に行う(コロナ感染状況に応じてイベントの実施について検討を行う)

4. 今後のスケジュール

- ・集中取組み期間である平成31年4月から令和4年3月までに中間答申での方針に基づき取組みを実施
- ・開館20周年のイベントを20周年目の3月28日を含む約1年間(R2.10~R3.10)実施
- ・各種記念イベント終了までの運営状況をもって「R3年度審議会(R3.12予定)」を開催し、各取組みの検証及び取組みの評価指標を審議の上、最終答申をいただきたい。



多様な主体が集まる魅力ある博物館へ